

平成25年度大阪府立吹田東高等学校 第3回学校協議会

日時：平成26年1月27日（月）

場所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

- | | | |
|-----|--------|---------------------------|
| ・会長 | 天津 謙二 | 吹田市立東山田小学校 校長 |
| 委員 | 石黒 典男 | 学校関係者 |
| | 柏淵眞理子 | 地域教育協議会 東山田地区青少年指導員会地区委員長 |
| | 城下 英行 | 関西大学 社会安全学部 助教 |
| | 角 美代 | 本校 P T A会長 |
| | 室 善博 | 吹田市立千里丘中学校 校長 |
| 校長 | 中田 裕省 | 吹田東高等学校 校長 |
| 事務局 | 今井 洋子 | 吹田東高等学校 教頭 |
| | 内田 秀司 | 吹田東高等学校 事務長 |
| | 池田 隆宏 | 吹田東高等学校 首席 |
| | 藪内 博樹 | 吹田東高等学校 首席 |
| | 久保 美治郎 | 吹田東高等学校 指導教諭 |

・事務局より報告

保護者からの意見書の提出は0件であった。

・議 事

◆報告事項

(1) 府立学校の指示事項 平成26年度の取組みの重点

平成26年度府立学校に対する指示事項の重点事項についての確認を行った。

事務局：次年度の計画の参考にします。

委員：毎年、変化するのか。

事務局：大きく変わらないが、表現が変わることはある。

(2) 「学校教育自己診断の結果」について

現3年生の1年生からの経年度比較をしたグラフを基に議論

事務局：「生徒に対するアンケート」結果について

「吹田東高校に進学して良かった。」という質問には肯定的な意見が75.1%であった。以前は80%を超えていた。「シラバスは役に立っているか。」という質問には手間が掛けて作成している割に活用できていないので、課題が残る。「授業」に関する質問では、自分の目標に合った授業をしているが、授業がやや分かりにくいという回答が目立つ。「全体として授業に満足している。」という質問には肯定的意見が約60%あった。この数字を上げていくことが今後の課題である。「授業アンケートで授業は良いものになっている。」という質問の肯定的な回答が少なく、今後の課題である。「学校の教員」に関する質問では約半数の生徒が教員に相談できると回答している。高校生になると気軽に相談できないようである。「部活に積極的に関わった。」という質問では年々、減少傾向にある。「人権」に関する質問は3年間、大きな変化が見られない。「異文化理解」に関する質問では次年度、海外語学研修を行うので、向上が期待される。「学習」に関する質問では、学習方法に悩んでいる回答が目につく。また、予備校や個別塾に通う生徒が年々、増加している傾向にある。

「保護者に対するアンケート」結果について

「保護者と話す機会が多い。」という質問には肯定的な意見が86.5%で多いように感じるが、以前に比べ若干減少している。学校の情報は生徒から保護者に比較的伝わっていると思われる。学校からの情報発信として、メール配信サービスやホームページで「校長通信」という欄を設けている。「学校の施設・設備」に関する質問では肯定的回答は少ない。「自尊感情」に関する質問には半数が肯定的であり、6割を超えることを目標にしている。公開授業も年間に1回から2回に増やし、来校機会を増やす取り組みを行っている。

委員：中学校でも同じようなアンケートを実施しているが、学年によって雰囲気が違う。生徒と保護者と話をする機会が学年が上がるに従って増えていることは良いことだ。

委員：メール配信サービスはありがたい。保護者の方が生徒よりホームページを見る機会が多いと感じる。保護者アンケートで「わからない」という回答を減らすようにしていけばいいと思う。

委員：「学校の教育方針」に対する質問は捉えようが難しい。全体に肯定的意見が多いように思う。

事務局：現1年生は「高校に入学して良かった」という質問に肯定的な意見が例年よりも少なかった（6割を超えるぐらい）。入試制度の影響しているかもしれない。ここ3年ほど毎年、入試制度が変わっており、現1年生は本校の第一希望が少なかったことも影響しているように感じる。アンケートを実施する時期によって変わってくると思われる。

(3) 授業アンケートの結果

事務局：今年度から府立高校で年間に2回、授業アンケートを実施することになった。第1回目は1学期の終業式で、第2回目は12月上旬に実施している。本校はそれに加え、2学期中間考査後に記述式アンケートを実施している。

質問項目は9項目で、座学授業と実技授業で質問内容を変えている。生徒は1～4で答える。(4よくあてはまる 3ややあてはまる 2あまりあてはまらぬ 1まったくあてはまらない) 集計算出法として $\{4 \times (4 \text{の回答数}) + 3 \times (3 \text{の回答数}) + 2 \times (2 \text{の回答数}) + 1 \times (1 \text{の回答数})\} \div \text{全回答数}$ で算出している。平均2.8以上は最低の達成目標にしている。各学年とも教員の授業改善の取り組みが評価されている。1年生は2学期になり、学習内容が難しくなり、項目によって下がっている箇所も見られる。2年生は修学旅行後の中だるみは最小限に抑えている。教員の地道な努力の積み重ねだと思われる。3年生は1学期の成績が仮評定につながるので一先懸命取り組んでいたが、2学期以降は進路が決まった者もあり、緊張感に差が出た。その結果、学習意欲が低下した。

委員：科目によってばらつきがあるか。

事務局：科目によって差がある。実技が座学をカバーしている印象を受ける。

委員：生徒アンケートの結果と授業内容は一致しない場合もある。生徒受けのいい教員もいる。

事務局：そのために授業観察を行っている。全教員にデータを配付し、人数分布が分かるようになっている。

◆協議事項

- (1) 自己評価を踏まえた学校関係者評価及び次年度の学校経営計画について
平成25年度 学校経営計画及び学校評価を基に議論

委員：保護者懇談はどのような形式で行っているのか。(保護者懇談参加率94%)

事務局：年間に2回、期間を限定して行っている。担任より2者懇談の場合と3者懇談の場合がある。

委員：来校して欲しい保護者が来ない場合は。

事務局：期間外でも実施している。保護者向けプリントを配付する際、メール配信サービスも併せて行っている。登録者数は9割を超えている。

委員：「担任以外に相談室等で気軽に相談する先生がいる。」の肯定的回答が37%と低いのが気になる。この数値が上がれば、自尊感情の肯定にもつながり、自分に自信を持つことができる。本校に在籍している生徒は中学校ではおとなしくて、自信がない生徒が多いように感じる。

委員：相談しやすい雰囲気が大事です。

事務局：ここ数年、保健室に来室する生徒は減少しているが、逆にスクールカウンセラーの件数は増加している。学校では抱えきれない場合もある。

委員：養護教諭の活用も大事だ。評価しない人の存在は大きい。

事務局：校則が厳しいのは浸透している。受け取り方としては「しっかりしている学校」と「ただ厳しい学校」という場合に分かれるだろう。

事務局：漢検、英検は全員受験させ、最低でも3級以上は合格しようと生徒に言っている。

委員：漢検、英検は自ら受験したいとは言わないが、勉強するきっかけになり、合格すれば自信につながると思う。

委員：遅刻が減少しているが、どのようなアプローチをされているのか。

事務局：日頃から生徒には遅刻はしないように訴えかけている。

委員：語学研修は生徒の力を伸ばすのに良い機会になると思う。

事務局：P T A、同窓会の協力も不可欠になる。ホームスティの行き先は決まった。受け入れは8名の申し出があった。

委員：能楽部や俳句部と交流する機会があればいいと思う。

事務局：いただいた意見を参考に学校運営をしていきます。